

# まちひとしごと

Vol. 51

農業は葉  
千 さん  
こうだい  
紘大

## 次の世代につなげるために 農業に新たな波を



### 寒

別地区で農業を営む札幌市出身の千葉紘大さん。

車が好きだった彼は、高校時代にガソリンスタンドでアルバイトを始めたという。

「高校生だと働ける時間が限られていたこともあり、なかなか採用されませんでした。悔しくて、危険物取扱者の試験に合格し、やっと働くことができたときは、うれしかったです」

高校卒業後は、趣味のスノーボードができる環境と、興味のある機械関係の学科があることから東北の大学へ進学。その後、東京の企業へ就職したが、『後悔

しないためにやりたいことをやる』という気持ちが芽生え、大学時代から胸にあった海外に行きたいという願いを実現するため退職。オーストラリアへと移り住み、農業と出会った。

初めて経験した農業や海外での生活は、今振り返れば大変なこともあったというが、やりがいも多く、不思議とつらく感じなかったと話す。

「当時、英語をほとんど話せなかった自分でも、働けたのが農業でした。暑い中での作業は、体力的に厳しかったです。英語を学びつつ、さまざまな土地で、いろいろな農作物の収穫作業などを経験できた日々は、とても充実していました」

約2年間をオーストラリアで過ごした千葉さん、今度は世界各地を巡る旅に出た。アジアや南米・ヨーロッパなど、多くの土地を訪れ、アフリカでは約4カ月かけて、自転車で6400<sup>km</sup>を旅した。

『生まれ育った北海道で農業をやりたい』という夢を抱き帰国した彼は、幼少期に何度か家族旅行で来たことがあった倶知安町に滞在。そこで地元農家と出会い、自身の夢をかなえるきっかけをつか

んだ。

「自分の夢や思いを聞いて協力してくれた方や、温かく見守ってくれる周りの農家の皆さんには、本当に感謝しています。今は、自分の責任で試行錯誤しながら、農作物を生産する喜びを感じる事ができています」

現在は、トマトやブロッコリーなどを作付けするが、生産だけではなく、加工・販売までを夫婦で担うポップコーン販売を、町内や札幌市内のスーパーマーケットで行っている。

「雪の多いこの地域で、冬でも農家として何かできることはないかと考え、ポップコーン販売をはじめました。作ったものをお客さんに直接販売できるのは、思っていた以上に楽しく、やりがいも感じます」

千葉さんは「自分が与えてもらったチャンスは次は自分が与えられるような立派な農家になって、農業という大切な産業を次の世代につないでいきたいです」と話す。

農業のために新たな挑戦を続ける彼の姿を見た人には、その思いがきつと伝わるはずだ。

※まちひとしごとは不定期連載です